

淀川水系 猪名川下流ブロックの流域の概要

余野川・箕面川・千里川

平成 20 年 10 月

大 阪 府

目 次

1. 流域の概要		2.3 歴史・文化	
1.1 猪名川下流ブロックの構成-----	1	(1) 歴史・文化財-----	26
1.2 流域市町の概要-----	2	(2) 行事・イベント-----	28
2. 流域の特性		2.4 河川の特 性	
2.1 自然環境特性 -----	3	(1) 河川の状況-----	29
(1) 地形・地質-----	3	(2) 水環境-----	33
(2) 気候-----	4	水質-----	33
(3) 動植物 植生 鳥類 哺乳類 両生・爬虫類 昆虫 水生生物-----	5	2.5 水利用と空間利用	
(4) 景観-----	16	(1) 既得用水の状況-----	34
2.2 社会環境特性		(2) 河川空間利用-----	35
(1) 人口-----	17	(3) 住民との協働-----	36
(2) 土地利用-----	18	(4) 水害の状況-----	37
(3) 産業-----	19	(5) 河川の整備状況-----	40
(4) 下水道整備-----	22	(6) 箕面川ダム-----	41
(5) 公共・レクリエーション施設-----	24	現状と課題-----	42
(6) 交通-----	25		

1. 流域の概要

1.1 猪名川下流ブロックの構成

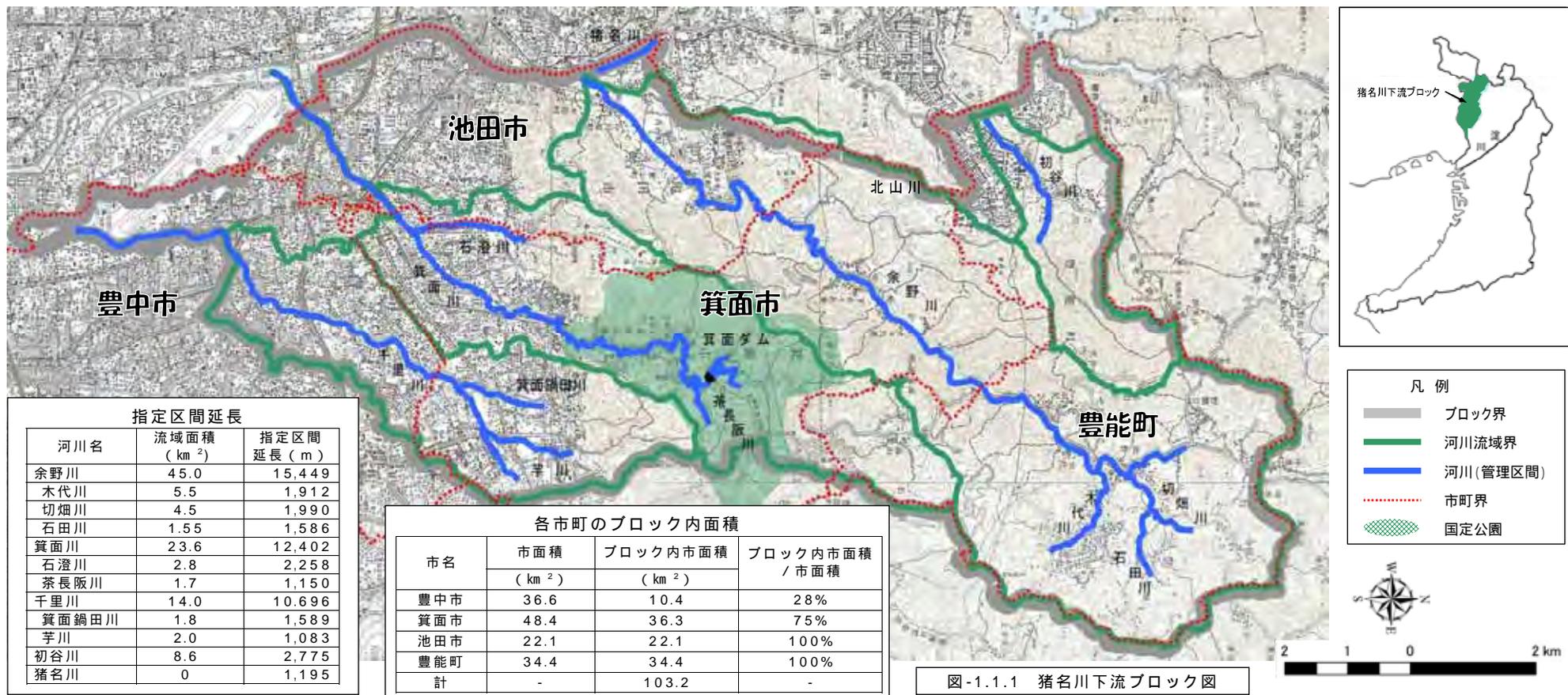
猪名川下流ブロックは、北摂山地に源を発し、猪名川に合流する千里川、箕面川、余野川と一庫・大路次川に注ぐ初谷川の各流域とそれ以外の内水域から構成されます。

千里川の流路延長は約 11 km (うち一級河川指定区間 10.7 km)、流域面積は約 14 km² で芋川と箕面鍋田川の支川が流入しています。箕面川の流路延長は約 16 km (うち一級河川指定区間 12.4 km)、流域面積は約 24 km² で箕面川ダムを有し、茶長阪川と石澄川の支川が流入しています。余野川の流路延長は約 16 km (うち一級河川指定区間 15.4 km)、流域面積は約 45 km² で、上流で石田川、切畑川、木代川、中流で北山川の支川が流入しています。初谷川は流路延長約 3 km (うち一級河川指定区間 2.8 km)、流域面積約 7 km² となっています。

猪名川下流ブロックは北摂山地と北大阪丘陵による起伏に富んだ地形となっており、平地部から丘陵地、さらに山麓周縁まで市街化が進んでいます。山間部には、「明治の森箕面国定公園」があり、大阪都心から近い自然観光地として明治時代から多くの観光客を寄せています。かつての信仰の場として多くの寺社が創建され、修験者が行き来しました。

箕面川上流の国定公園内には、治水機能を持つ貯水容量 200 万 m³ の箕面川ダムがあり、ダム周辺の環境整備が行なわれています。

猪名川下流ブロックは豊中市、池田市、箕面市、豊能町の 3 市 1 町にまたがっています。



1.2 流域市町の概要

豊中市

豊中市は、大化の改新から豊島地方の中心となり、歴史的な屋敷も多くの残っています。市の名は明治時代の豊中村に始まります。豊中市は大阪に近い地の利と起伏に富んだ丘陵地にあり、明治時代に鉄道の開通に合わせて早くから絶好の住宅地として発展するとともに、高校野球、高校ラグビー・サッカー、高校アメフトの発祥地ともなりました。また、我が国の最初の本格的なニュータウンが千里に開発されています。大阪空港及び名神高速道路、中国自動車道が位置するなど大阪の空と陸の玄関口になっています。豊中市は箕面市、池田市、豊能町、能勢町とともに豊能地域としての結び付きをもち、市民活動のみならず、自然豊かな豊能地域の観光やイベント、自然保全や環境活動への市民の意識の高さが伺える地域でもあります。

千里川は箕面市から発し、豊中市の北部の丘陵地を流れて低地を進み、大阪空港の南方で猪名川に合流します。

箕面市

箕面市は、市域の60%を明治の森箕面国定公園を含む緑豊かな中央山間地域が占めています。古くから西国街道が市南部の山麓沿いにあり、箕面滝や寺社など、自然のみならず歴史的な文化財が多い地域です。

明治時代に鉄道が開通し、箕面公園への観光客も多く、昭和に入って大阪都市圏の住宅都市として発展してきました。平成19年には箕面市街と北部の止々呂美地区の箕面森町を結ぶ箕面グリーンロードが開通して北部へのアクセスが向上しています。また、新名神高速道路が計画されています。

箕面市では山なみや四季豊かな市街地を流れる河川、緑の風景、農地の広がる風景など景観と調和した住宅都市としての関心が高い地域となっています。

余野川は市北部の止々呂美地区を流れ、箕面川は箕面山系の豊能町から入り、国定公園内を箕面川ダム、箕面滝、箕面渓谷を経て丘陵地の市街地を流れ、石澄川を合流して池田市に至ります。

千里川は南部の山地から市街地の丘陵地を流れ、芋川と箕面鍋田川を合流して豊中市に至ります。

池田市

池田市は、江戸時代に酒造業が発達し、物資の中継地として商業が栄え、明治時代には国や大阪府の出先機関や師範学校が設置されるとともに、早くから住宅開発も行なわれ、北摂地域の官庁のある市として発展してきました。また、池田市は古くから豊能地域の物資の集散地であり池田炭が有名であるほか、世界初のインスタントラーメンの発祥地としても有名です。

余野川が市北部を流れて猪名川に合流します。箕面川支川の石澄川が市東部を流れ、箕面市境沿いに南流して箕面市で箕面川に合流した後、池田市内の低地を流れ、大阪空港の北方の兵庫県伊丹市に至って猪名川に合流します。

豊能町

豊能町は緑豊かな北摂山系にあり、古くは丹波圏と摂津国が交差する地域です。現在は大阪府、京都府、兵庫県の3つの生活圏が交差し、交流する地域となっています。市の60%が山林を占めており、妙見山の山頂域は大阪府北摂唯一のブナ林が残存しています。町の中央部を南北に連なる妙見山などの650m内外の山々に地域は西と東に二分されています。西の地区は能勢電鉄があって住宅地が広がっています。東の地区ではアクセスは道路だけですが、平成19年に箕面市北部に箕面グリーンロードが開通して大阪都心とのアクセスは改善されています。

余野川が東の地区の北部から発し、石田川を支川にもつ切畑川と合流して東の地区の中心部を東南下し、木代川を合流し、山間部を流下して箕面市境に至ります。

初谷川は妙見山に発し、西の地区の市街化域を流れて兵庫県川西市内に入って一庫・大路次川に合流します。

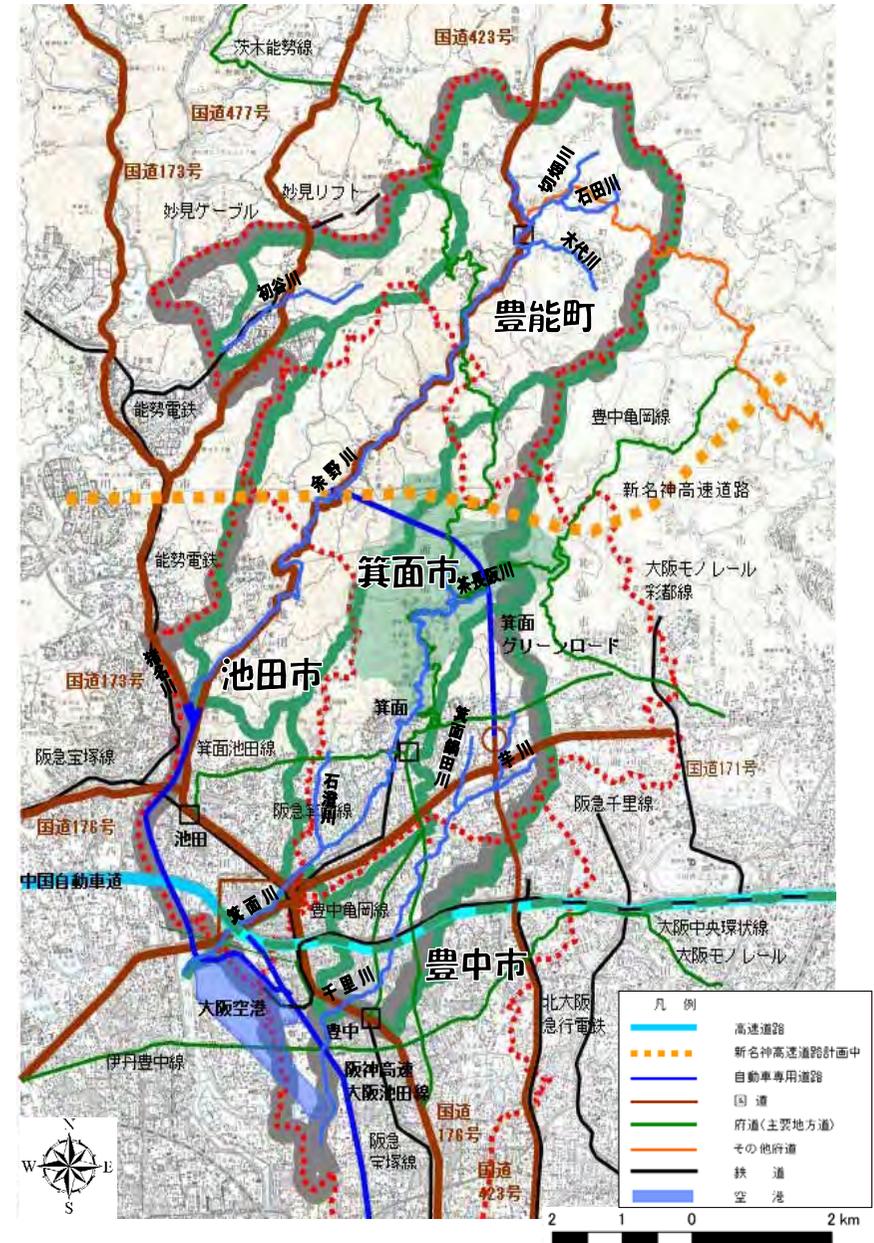


図-1.2.1 猪名川下流ブロック関係市町図

2. 流域の特性

2.1 自然環境特性

(1) 地形・地質

猪名川下流ブロックの地形は、北摂山地と北大阪丘陵地からなり、北部に山間の盆地や扇状地性低地が点在しています。南部は山地と北大阪丘陵地の箕面丘陵、千里丘陵に挟まれた中低位の段丘地形と扇状地低地とより構成されています。

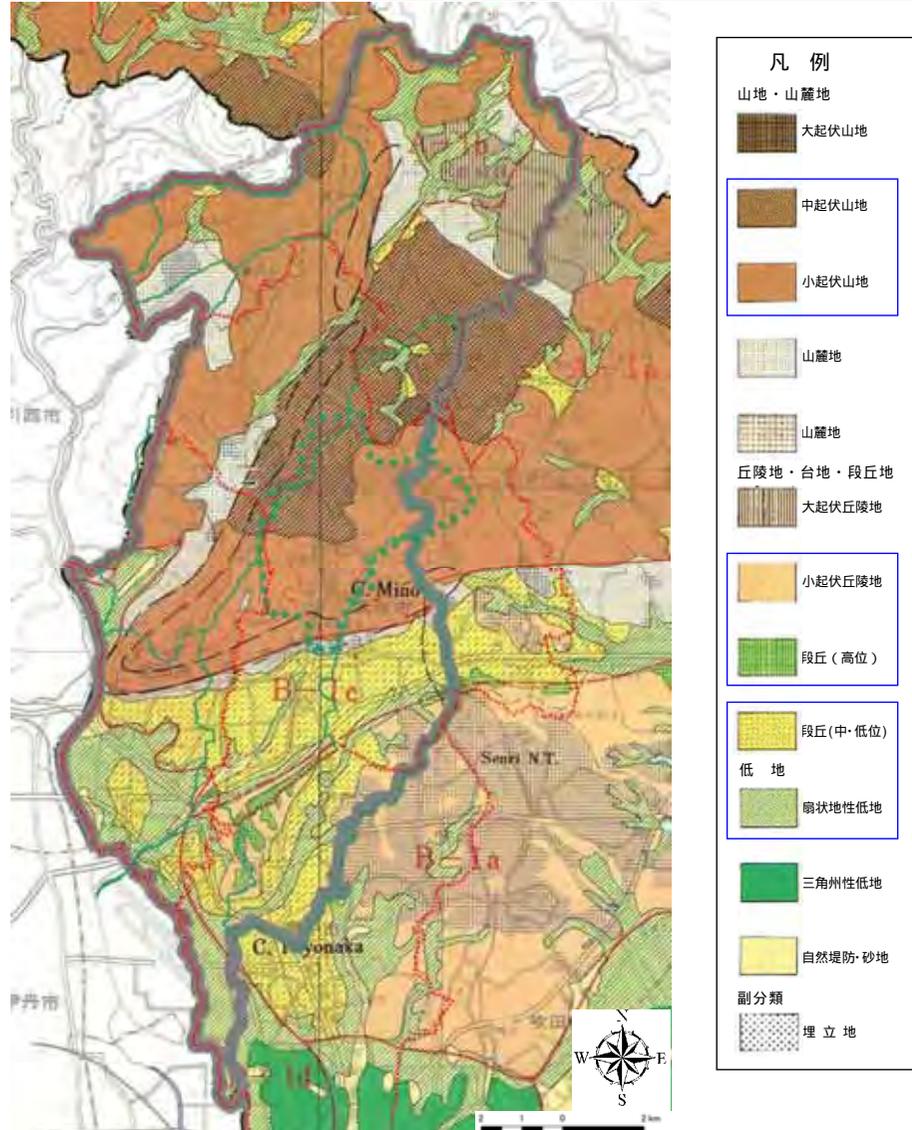


図-2.1.1 地形分類図(大阪府)昭和51年 日本地図センター

地質は、山地部では主に六甲山陰型花崗岩類と、砂岩、泥岩から構成される丹波層群からなり、段丘地では礫、扇状地では砂で構成され、大阪層群の未固結堆積物となっています。

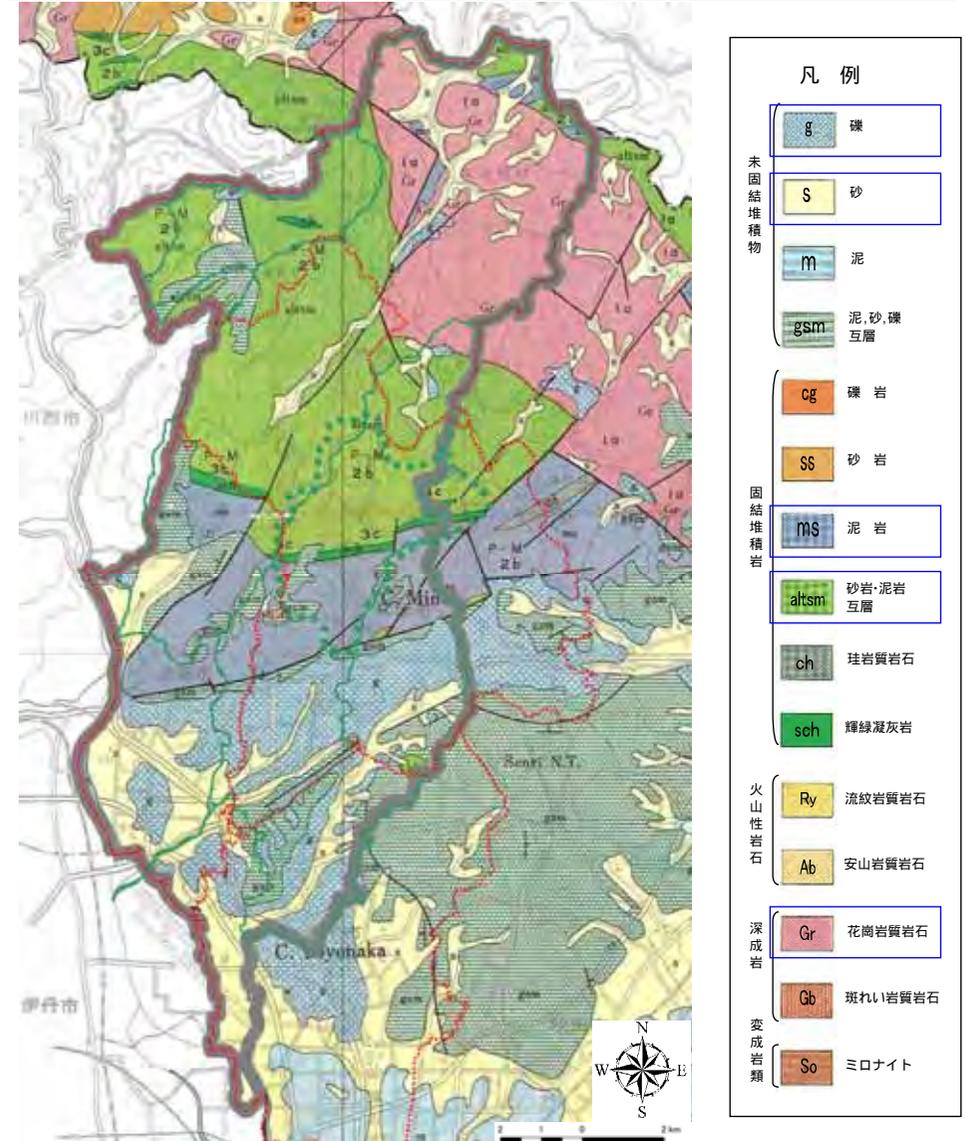


図-2.1.2 表層地質図(大阪府)昭和51年 日本地図センター

(2) 気 候

瀬戸内気候区に属し、温暖で年間の気温差は24℃と比較的小さく、豊中観測所における平成10年～19年の年平均気温は16.6℃、年間降水量は1,224mmとなっています。降水量は、梅雨期及び台風期に多く、冬期の雨量が少ないという特徴をえています。

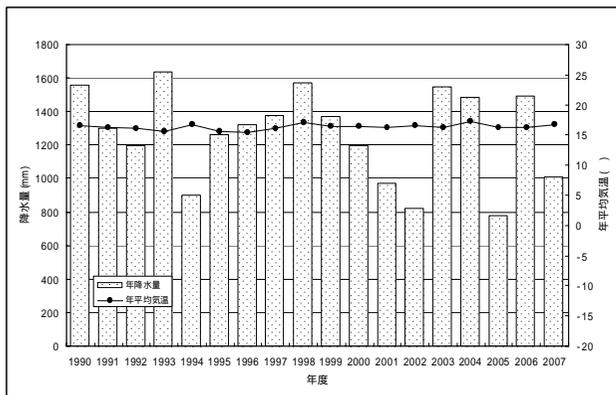


図-2.1.3 年降水量と年平均気温の推移 (平成10～19年)
(データ：大阪管区気象台豊中観測所)

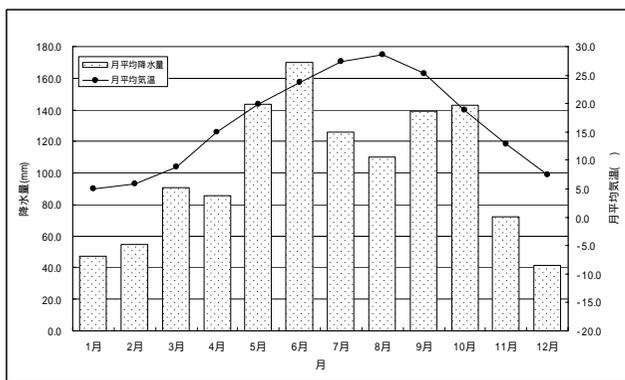
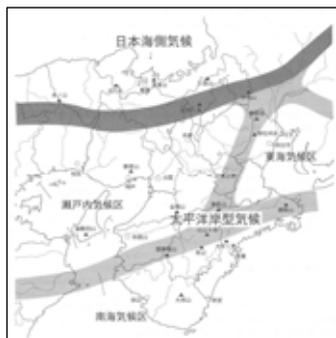


図-2.1.5 月別の降水量と平均気温 (平成10～19年)
(データ：大阪管区気象台豊中観測所)

図-2.1.4 気候区分布図
(出典：「大阪気象百年」大阪管区気象台)

昭和53年～平成19年の5ヶ年毎の平均気温・降水量観測結果によると、気温は上昇傾向にあり、降水量は1,200～1,400mm程度で推移しています。また、近年、大阪府内の雨量観測所における集中豪雨が観測された数が増加傾向にあります。昭和40年～昭和63年(24年間)の時間雨量50mm以上の発生回数は21回。平成元年～平成18年(18年間)の時間雨量50mm以上の発生回数は43回。特に近年は、ほぼ毎年、時間雨量70mm以上の降雨が発生し、その回数も増大しています。

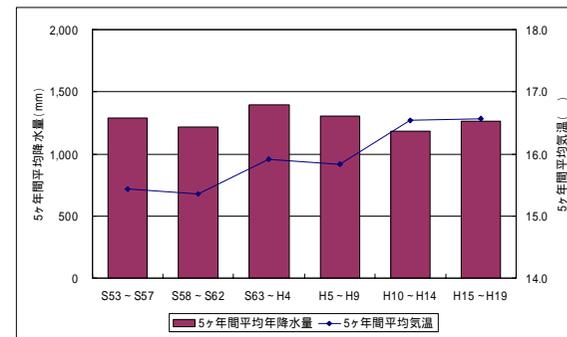
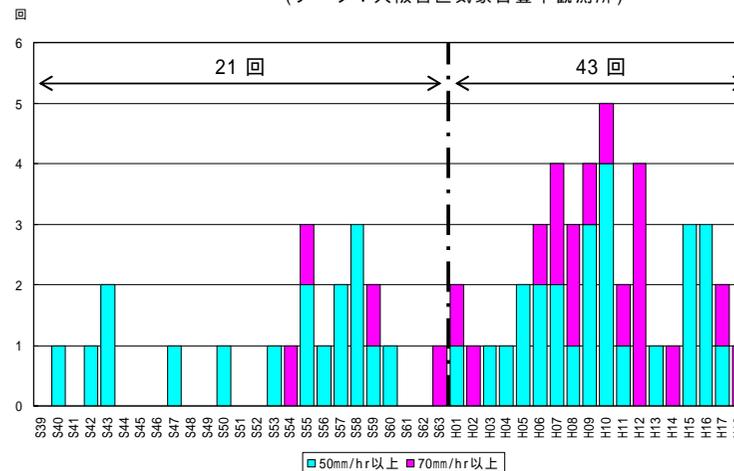


図-2.1.6 昭和53年～平成19年の5ヶ年毎の平均気温・降水量
(データ：大阪管区気象台豊中観測所)



備考) 大阪府内全域の雨量観測所における降雨。
前後1日に複数の観測所で観測された場合でも、1つの降雨としてカウント。
雨量観測所は、昭和39年当時が25箇所程度であったのに対し、現在では40箇所程度。

図-2.1.7 昭和39年から平成18年にかけての50mm/hr以上の降雨回数
(データ：大阪府)

(3) 動植物
植生

自然環境保全基礎調査（第3回、第6、7回）の現存植生図によると、猪名川下流ブロックの植生は、山地部の大部分をモチツツジ - アカマツ群集及びスギ・ヒノキ・サワラ植林やヤブムラサキ - コナラ群集で占めています。流域内の箕面国定公園には広範囲に特定植物群落「イロハモミジ-ケヤキ林」が見られ、五月山南面にはアベマキ-コナラ群集が見られます。流域北部の妙見山頂付近には大阪府北摂唯一のブナ林が見られます。ブロック南部の丘陵部、低地部は、ほとんどが市街地となっています。

なお、国が行なった余野川ダム事業における環境調査結果（H18.7）によれば、エビネ、ミヤコアオイ、オオヒキヨモギなどの生育が確認されています。

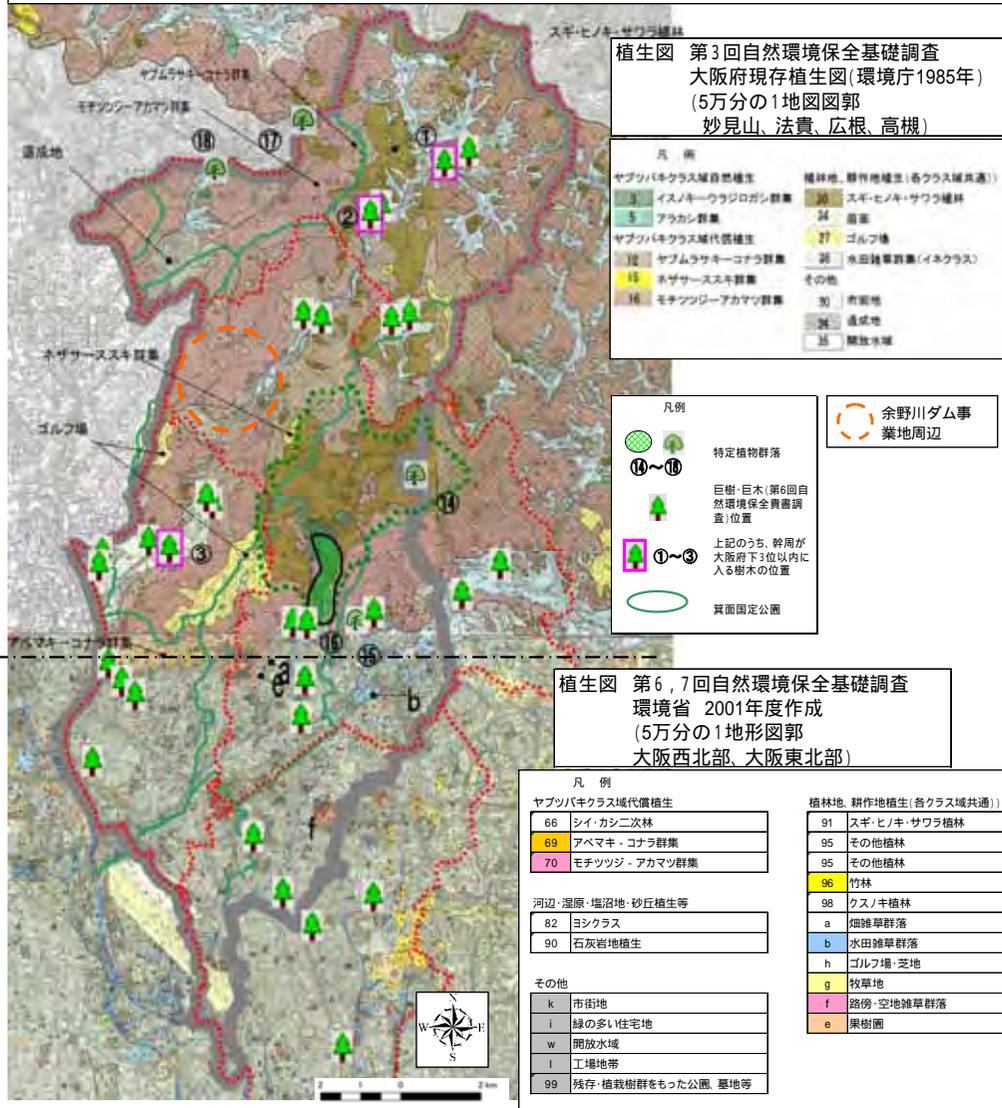


表-2.1.1 特定植物群落一覧

NO.	件名	選定基準
	勝尾寺のウラジロガシ林	郷土景観
	箕面滝安寺のシイ林	原生林もしくはそれに近い自然林
	箕面のイロハモミジ-ケヤキ林	原生林もしくはそれに近い自然林
	能勢妙見山のブナ林	南限、北限、隔離分布等分布限界になる山地に見られる
	吉川神社のシイ林	郷土景観

出典：第3回自然環境保全基礎調査 大阪府自然環境情報図(環境庁1989年)

表-2.1.2 巨樹・巨木 幹周(囲)が300cm以上の樹木*

市	件数(市域単位の報告数)	
豊能町	カヤ, コジイ, ヒノキ, スギ, イチョウ など	21
箕面市	カヤ, ヤマモモ, ムクノキ, クスノキ, イチョウ など	9
池田市	カヤ, クヌギ, ムクノキ, モミ, イチョウ など	11
豊中市	カヤ, クヌギ, ムクノキ, モミ, イチョウ など	6

出典 第6回自然環境保全基礎調査、環境省、平成11,12年度

*ただし、第4回自然環境保全基礎調査(昭和63年度における巨樹・巨木(幹周(囲)600cm以上)では報告はされていません。

表-2.1.3 大阪府樹種別上位3位に入る巨樹

	所在地	樹種	幹周(cm)	府順位	備考
	豊能町 川尻	ケヤキ	380	3位	隣接する大ケヤキで有名な能勢町に近い
	豊能町 木代	スギ	562	2位	スギは豊能町のシンボル
	池田市 東山	ムクノキ	561	2位	池田市指定 S51.10 120号

出典 第6回自然環境保全基礎調査 環境省 平成11,12年度 市町村別総括

巨樹・巨木林調査市町村別総括表

備考は、ホームページを参考にして記述。

第3回 自然環境保全基礎調査 大阪府現存植生図、大阪府自然環境情報図
第6回・第7回 自然環境保全基礎調査 植生調査情報提供ホームページ
第4回 自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査結果
第6回 自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査結果
環境省 自然環境局生物多様性センター

図-2.1.8 植生の状況図

哺乳類

自然環境保全基礎調査（第4回、第6回）によれば、大型獣として、昭和54、55年頃の調査では山間部にはニホンザル、タヌキ、キツネ、ニホンイノシシ、ニホンジカが確認されていますが、昭和63～平成4年の調査では山地部ではタヌキ、キツネ、ニホンジカの3種に減り、平地部では、タヌキ、キツネが出現しています。

「箕面山サル生息地」は、国の天然記念物に指定されています。

なお、国が行なった余野川ダム事業における環境調査結果（H18.7）によれば、ニホンジカ、イノシシ、アナグマ、キツネ、タヌキの他、ニホンリス、イタチが確認されています。また、コウモリ類のククガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ等も確認されています。

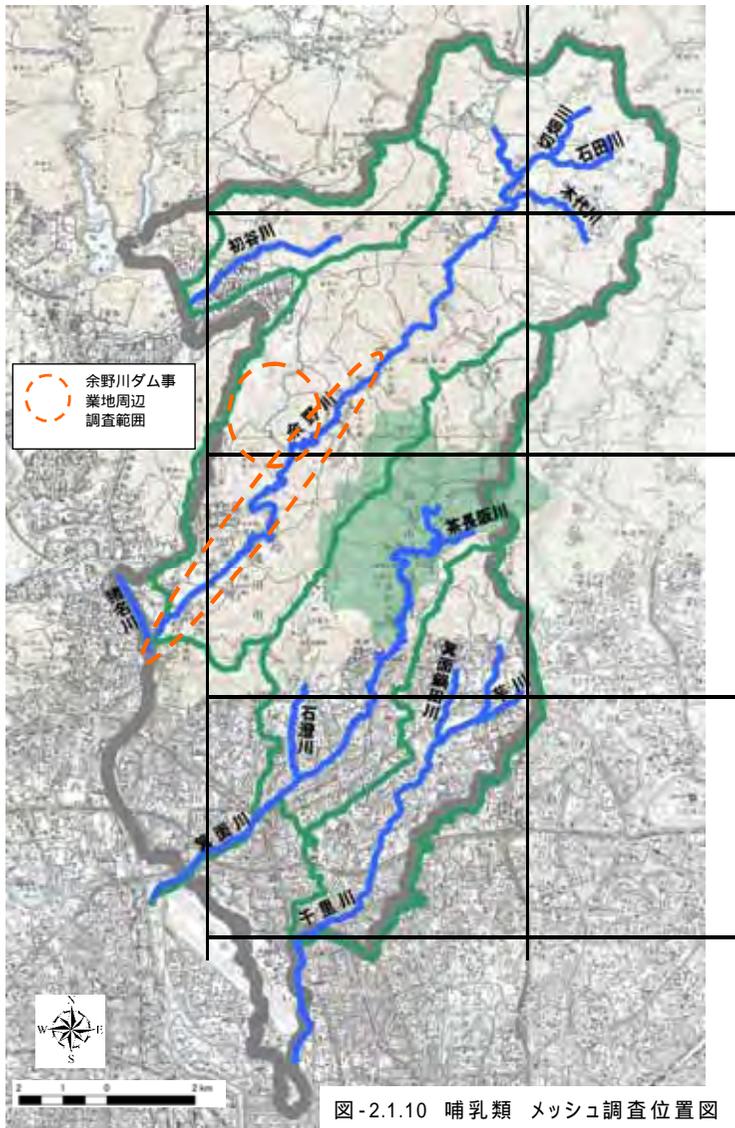


図-2.1.10 哺乳類 メッシュ調査位置図



表-2.1.5 哺乳類 確認一覧

種名	メッシュ番号					
	1	2	3	4	5	6
アナグマ						
キツネ						
タヌキ						
ニホンイノシシ						
ニホンザル						
ニホンジカ						
出現種数	5	4	5	2	4	4

昭和54、55年調査時出現種：

昭和63～平成4年調査時出現種： 昭和60年以降に確認

： 昭和59年以前に確認

分布出典

第2回自然環境保全基礎調査、動植物分布調査報告書（哺乳類）、環境庁自然保護局、昭和55年3月
 第6回自然環境保全基礎調査、動植物分布調査報告書（哺乳類）、環境庁自然保護局、平成5年3月
 写真出典

アナグマ；井の頭自然文化園 ニホンイノシシ；大阪府河南町 ニホンジカ；神戸市立王子動物園
 ニホンザル；箕面市広報紙「もみじだより」 キツネ、タヌキ；京都市立岡崎動物園

両生・爬虫類

自然環境保全基礎調査（第2回、昭和56年）によると、貴重種が5種確認されています。池・沼の近くに生息するモリアオガエル（絶滅危惧類：大阪府RDB）が余野川の上流部に、渓流に限らず人家付近でも見られるオオサンショウウオ（絶滅危惧類：大阪府RDB）が余野川の上流部、下流部、箕面川の中流部で確認されています。山地に生息するカスミサンショウウオ（準絶滅危惧）は、箕面川の最上流部で、ヒダサンショウウオ（準絶滅危惧）は箕面国定公園とその上流で広範囲に生息が確認されています。平地のゆるやかな流れに生息するダルマガエル（絶滅危惧類）が千里川の下流部で確認されています。

なお、国が行なった余野川ダム事業における環境調査結果（H18.7）によれば、両生類はイモリ、ニホンヒキガエル、モリアオガエル等、爬虫類は、アオダイショウ、マムシ、イシガメ等が確認されています。

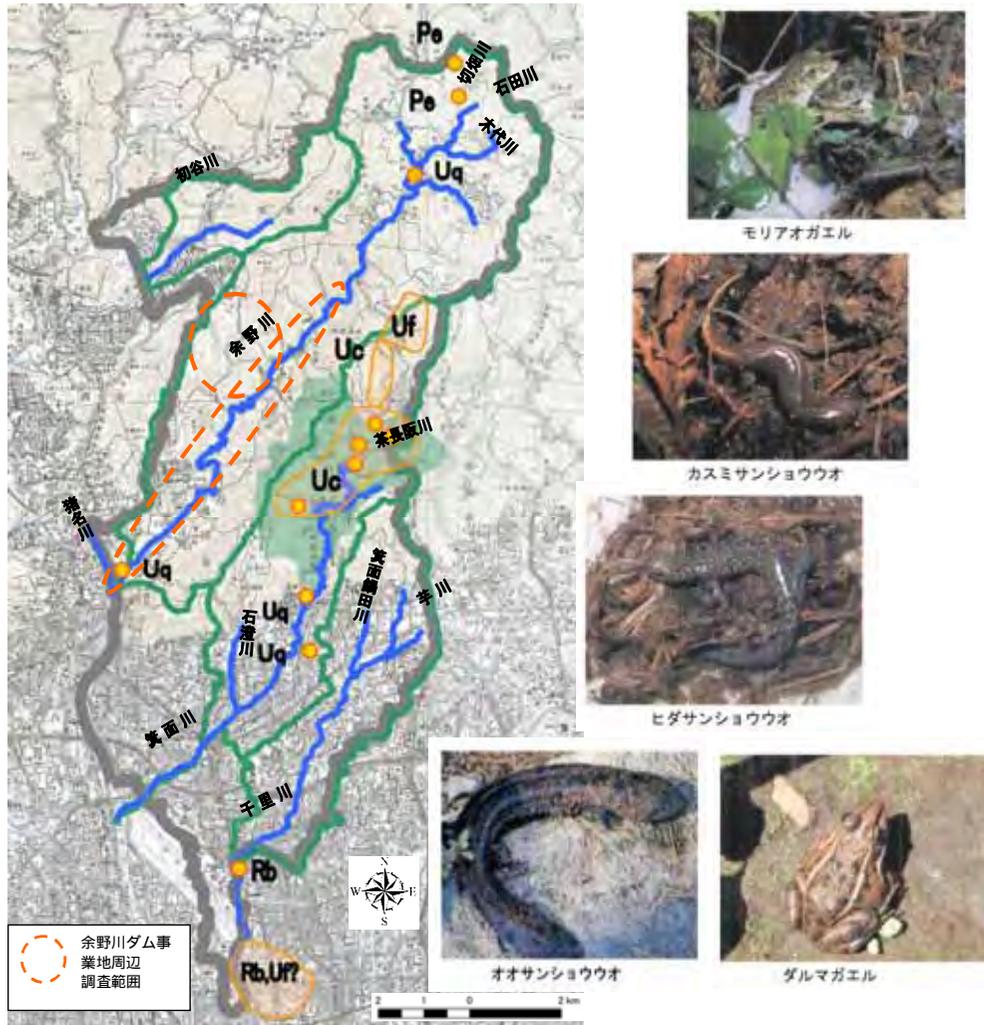


表-2.1.6 ブロック内で確認された貴重種

種略号	種名	生息環境	大阪府 RDB
Rb	ダルマガエル	・平地にある流れの緩やかな河川や池沼、水田等に生息し、水田や止水に分散して産卵する。 ・形態的にトノサマガエルと似るが住み分けをしている。	絶滅危惧Ⅰ類
Pe	モリアオガエル	・標高 100～200m の山地に分布し、池沼、用水池、水田などを産卵場とする。 ・樹上性で、変形後はすぐに木に登り、最初の包接以外は水に入ることが無い。	準絶滅危惧
Uq	オオサンショウウオ	・河川の上流に生息するが、山間の渓流に限らず、人家付近の小川や用水路にも見られる。昼間は、川岸の穴に潜んでいる。	絶滅危惧類
Uf	カスミサンショウウオ	・標高 400～800m の山地に生息し、森林や人里に近い水田周辺などの草地に多くみられる。 ・湧水の流れ込む水田・溝・湿地などの浅い止水に産卵。	絶滅危惧類
Uc	ヒダサンショウウオ	・標高 200～1000m の森林に生息し、渓流の源流の流れのゆるい場所で産卵する。 ・幼生は渓流で生息する。	準絶滅危惧

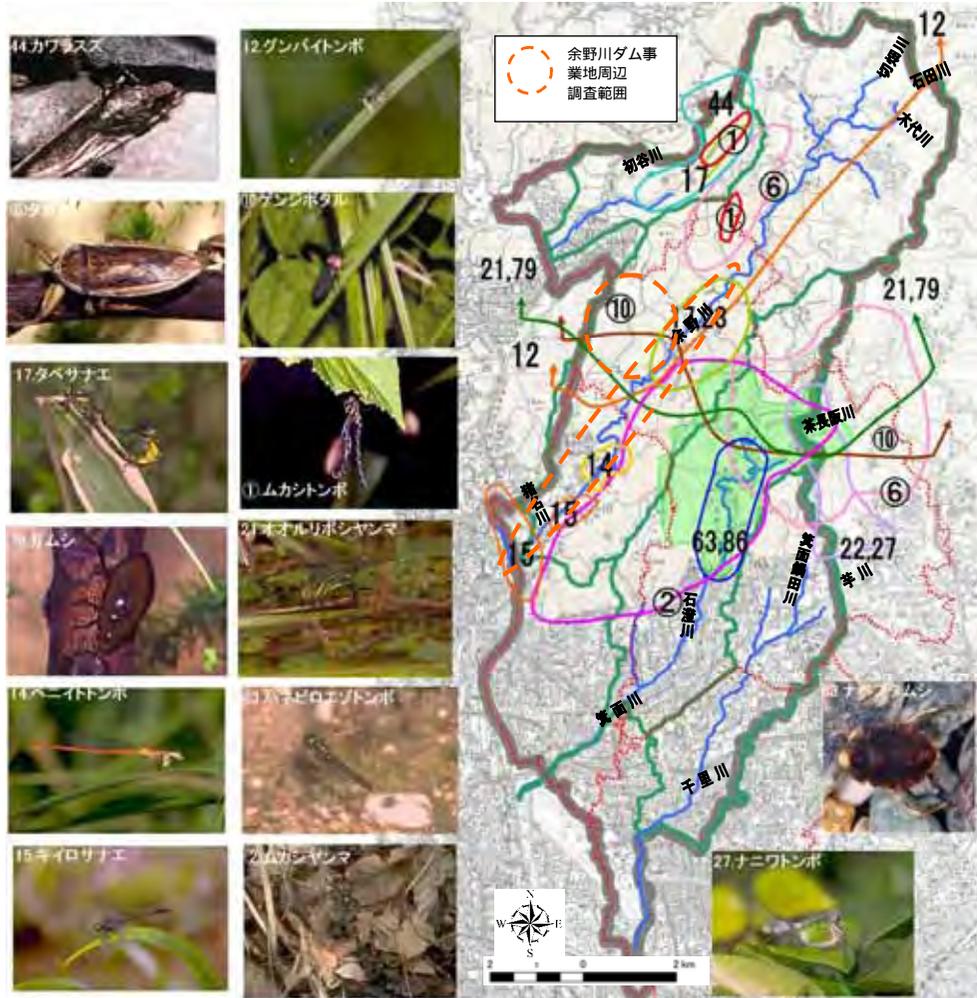
分布出典：第2回自然環境保全基礎調査 - 動物分布図（大阪府）、環境庁、昭和56年
 写真出典：同上報告書日本の重要な両生類・は虫類の分布全国版報告書、環境庁、昭和57年7月

図-2.1.11 両生・爬虫類 確認位置図

昆虫

自然環境保全基礎調査（第2回、昭和56年）によると、猪名川下流ブロックには、指標昆虫10種のうち7種および特定昆虫100種のうち60種が確認されています。川との関わりの深い種は指標昆虫4種、特定昆虫13種で貴重種は11種見られます。指標昆虫では、樹木で覆われた急斜面のある狭い渓谷やその上方の空間に生息するムカシトンボ（大阪府RDB、準絶滅危惧）が余野川上流と初谷川上流の山間部で、ムカシヤンマ（大阪府RDB、準絶滅危惧）が箕面国定公園を含む中央山地一帯で、水田や止水部で生息するタガメ（レッドリストおよび大阪RDB：絶滅危惧類）が余野川上流と箕面川上流に生息し、清流で餌となるカワニナが生息し、産卵に適したコケが生育していることなどが生育条件となるゲンジボタル（大阪府RDB、要注目）が余野川上中流と箕面川上流に確認されています。特定昆虫では、小さな流れに生息するグンバイトンボ（レッドリスト：準絶滅危惧、大阪府RDB、絶滅危惧類）、余野川上中流部に、ベニイトンボ（レッドリスト：絶滅危惧類、大阪RDB：準絶滅危惧）が余野川下流に、ハネビロエゾトンボ（レッドリスト：絶滅危惧類、大阪RDB：準絶滅危惧）が余野川中流部に、ナニワトンボ（レッドリスト：絶滅危惧類、大阪RDB：準絶滅危惧）が箕面川の上流南側の尾根付近に見られます。

なお、国が行なった余野川ダム事業における環境調査結果（H18.7）によれば、グンバイトンボ、ミヤマカワトンボ、ミズムシ、ナガミズムシ、ホタル等の河川及び池沼環境に生息する種や、オオムラサキ、セセリチョウ類、シジミチョウ類等の樹林帯に生息する種が確認されています。



分布出典：第2回自然環境保全基礎調査 - 動植物分布図（大阪府）、（環境庁、1981年）

表-2.1.7 川との関わりの深い種

番号	種名	主な川の利用形態	特定選定基準	レッドリスト H19.8	大阪府 RDB H12.3
指標昆虫類	ムカシトンボ	幼虫期は期間が長く、山間の樹林に囲まれた渓流で、早瀬の石の下の河床の安定した場所に生息。	指		準絶滅危惧
	ムカシヤンマ	幼生期は水の滴る斜面のコケに覆われた崖に穴を掘って生息。	指		準絶滅危惧
	タガメ	水草のある止水域に生息。	指	絶滅危惧類	絶滅危惧類
	ゲンジボタル	幼虫期は流れの緩やかな流水中で生息。成虫期は土堤の護岸の周辺の樹木や草等で生息。	指		要注目
特定昆虫類	12 グンバイトンボ	小さな流れ、植生のある水路などに生息。	C/G	準絶滅危惧	絶滅危惧類
	14 ベニイトンボ	幼生期は平地の抽水植物の多い止水域に生息。	D	絶滅危惧類	準絶滅危惧
	15 キイロサナエ	幼生期は平地・丘陵地の小川に生息。	D		準絶滅危惧
	17 タベサナエ	幼生期は平地・丘陵地の浅い小川に生息。	D/G		
	21 オオルリボシヤンマ	幼生期は丘陵地・山地の抽水植物の多い水域に生息。	G		準絶滅危惧
	22 キイロヤマトンボ	幼生期は流れが緩やかで、砂礫・砂底や河岸の植物に生息。	D		
	23 ハネビロエゾトンボ	幼生期は山間の細流や用水路、丘陵地や山地の湿地に生息。	D	絶滅危惧類	準絶滅危惧
	24 オオエゾトンボ	幼生期は流れない泥底や水際植物に生息。	D		
	27 ナニワトンボ	幼生期は平地・丘陵地の周辺に松林などのある池等に水域に生息。	D/G	絶滅危惧類	準絶滅危惧
	44 カワラスズ	幼生期は河原の砂礫地で生息。	G		
	63 ナベバタムシ	幼生期は水がきれいで、流れのある河川の上・中流の砂礫地に生息。	D/G		準絶滅危惧
	79 ガムシ	幼生期は浅くて水生植物がよく繁茂した水域に生息。	D		準絶滅危惧
86 ヤマトクロスジヘイトンボ	幼生期はきれいな水域で流れの速い瀬の中央部を好み、河床の石の下の隙間に生息。	G			

出典：主な川の利用形態：「川の生物図典（財団法人 リバーフロント整備センター、平成8年）」及び「トンボの調べ方（文教出版、平成17年）」を参考に記述
 写真出典：ムカシトンボ、タガメ、ガムシ：大阪府営箕面公園昆虫館
 グンバイトンボ、ベニイトンボ、キイロサナエ、ハネビロエゾトンボ、ナニワトンボ、ムカシヤンマ、オオルリボシヤンマ、タベサナエ；滋賀県立琵琶湖博物館
 ナベバタムシ：兵庫県立人と自然の博物館、カワラスズ：国土交通省天竜川上流河川事務所

指標昆虫10種
 分布域が広く、比較的なじみがあり、かつ全体として山地から平地までの良好な自然環境の指標となる昆虫として環境庁が指定。
 ムカシトンボ、ムカシヤンマ、ハッチョウトンボ、ガロアムシ目、タガメ、ハルゼミ、ギフチョウ、ヒメギフチョウ、オオムラサキ、ゲンジボタル

特定昆虫類100種：大阪府が調査対象種を選定
 特定昆虫類選定基準

記号	理由
A	日本国内でそこしか産しないと思われる種
B	分布域が国内若干の地域に限定されている種
C	普通種であっても、北限・南限などの分布限界になると思われる産地に分布する種
D	当該地域において絶滅の危機に瀕している種
E	近年当該地域において絶滅したと考えられる種
F	業者あるいはマニアなどの乱獲により、当該地域で個体数の著しい減少が心配される種
G	環境指標として適当であると考えられる種

図-2.1.12 貴重な昆虫の分布図

猪名川下流ブロックの水生生物（魚類）は、千里川、箕面川、余野川3川の平成3年～平成16年の調査で10科28種の魚類の生息が確認されています。

千里川では8科22種、貴重種（大阪府RDB）は4科7種が確認され、中上流にカワムツが、中下流にオイカワが見られます。ドジョウは上中下流で、ナマズ、コイなどの大型魚や外来種のオオクチバス、ブルーギルが下流でみられます。箕面川では、4科9種、貴重種（大阪府RDB）3科3種が確認され、上流でカワムツ、カワヨシノボリ、中流でオイカワ、タカハヤ、ドジョウが見られます。また、下流でイトモロコが1度確認されています。余野川では、7科18種、貴重種（大阪府RDB）4科8種が確認され、全川でカワヨシノボリ、カワムツ、中流でドンコ、中下流でシマドジョウ、下流でオイカワが見られます。外来種のオオクチバスが下流で確認されています。なお環境省レッドリスト種は出現していませんが、大阪RDB絶滅危惧類ムギツクは余野川下流と箕面川中流で、準絶滅危惧種のギギは千里川下流と余野川下流で見られます。

なお、国が行なった余野川ダム事業における環境調査結果（H18.7）によれば、余野川でカワムツ、オイカワ、カワムツ等の流水を好む魚類、シマドジョウ、カワヨシノボリ等底生性の魚類が多く見られ、北山川でカワムツ、タカハヤ類と底生性のカワヨシノボリが多く見られ、その他、アユ、ギンブナ、コイ、カジカ、ブラックバス等が確認されています

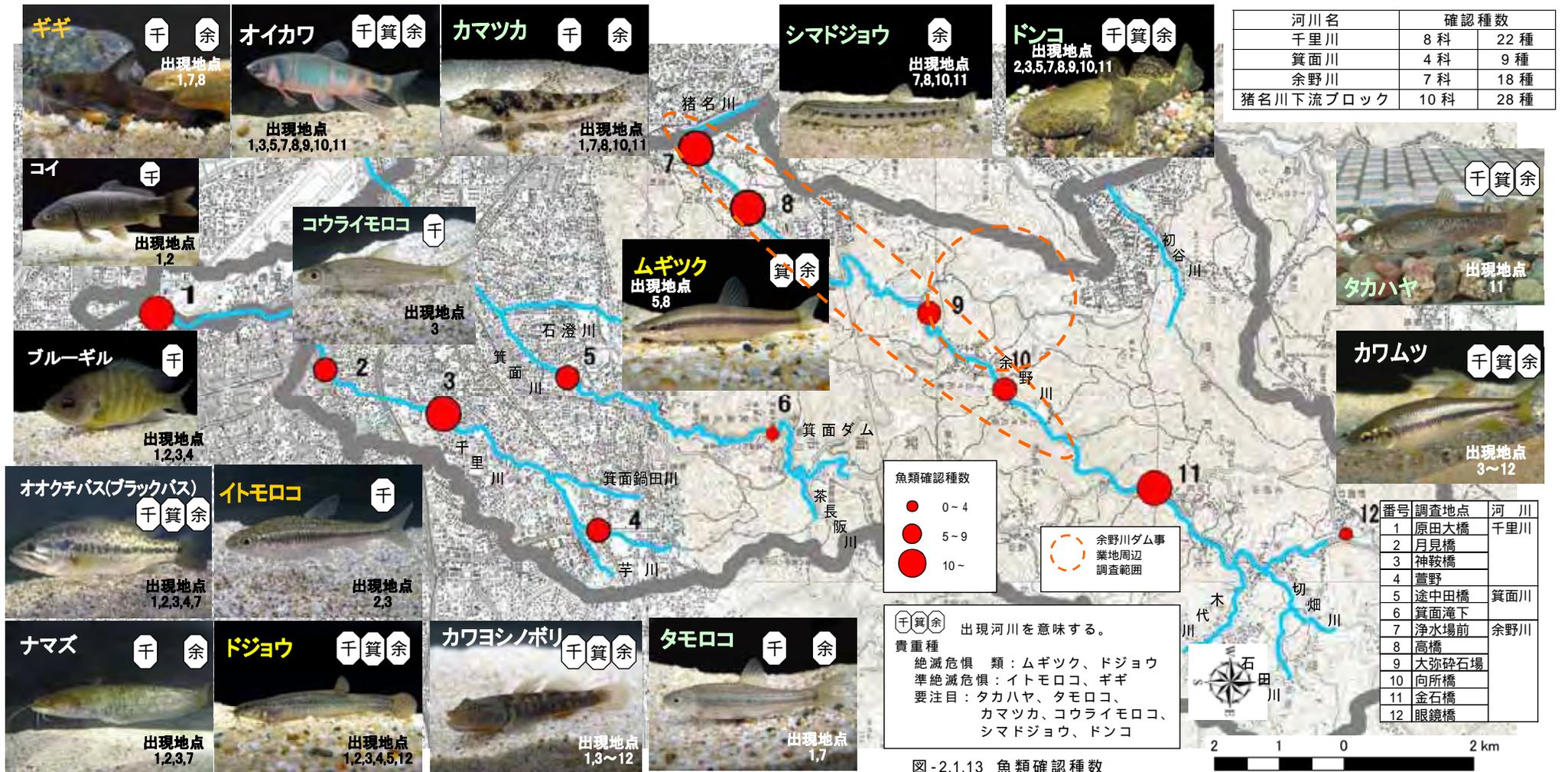


図-2.1.13 魚類確認種数

オイカワとカワムツでみる河川環境

瀬と淵が形成されている比較的多様な環境を必要とするカワムツと浅く開けた場所を好むオイカワの生息状況を見ると、千里川の中下流、余野川の下流ではオイカワの方が多く確認されており、千里川の上流、箕面川の上流、余野川の上流でカワムツが多く確認されています。以上より、猪名川下流ブロックの3河川は、下流で比較的単調な河川になっていること、上流は多様な環境が残っていることが伺えます。

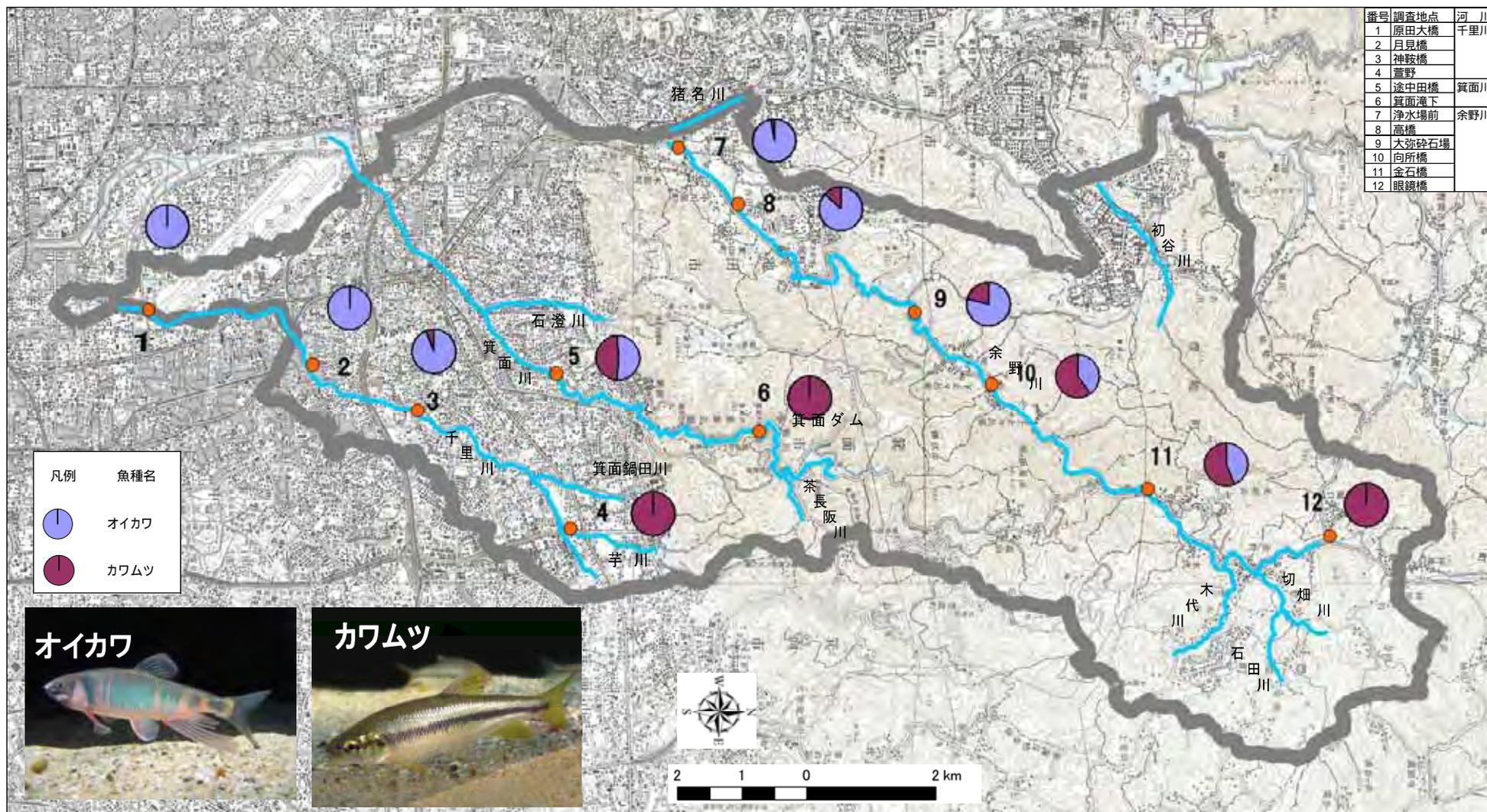


図-2.1.14 オイカワとカワムツの個体数比

-2 水生生物 (甲殻類・貝類)

猪名川下流ブロックの水生生物(甲殻類・貝類)は、平成16年の調査で6目12科12種の生息が確認されています。
 貴重種については、モノアラガイ(レッドリスト：準絶滅危惧)が箕面川下流と余野川下・上流で、マシジミ(レッドリスト：準絶滅危惧)が余野川上流で、ヒラマキミズマイマイ(レッドリスト：情報不足)が千里川上流で確認されています。また、ゲンジボタルの幼虫のエサとなるカワニナが千里川上流、箕面川中流、余野川下・上流で見られています。
 水質階級の指標とされている水生生物で見ると、水質階級Ⅰの生物が箕面川中流、余野川上流、余野川下流に、水質階級Ⅱの生物は余野川中～下流に、水質階級Ⅲの生物が千里川の中下流に見られます。なお、箕面川中流部では水質階級ⅠとⅡの生物が見られます。

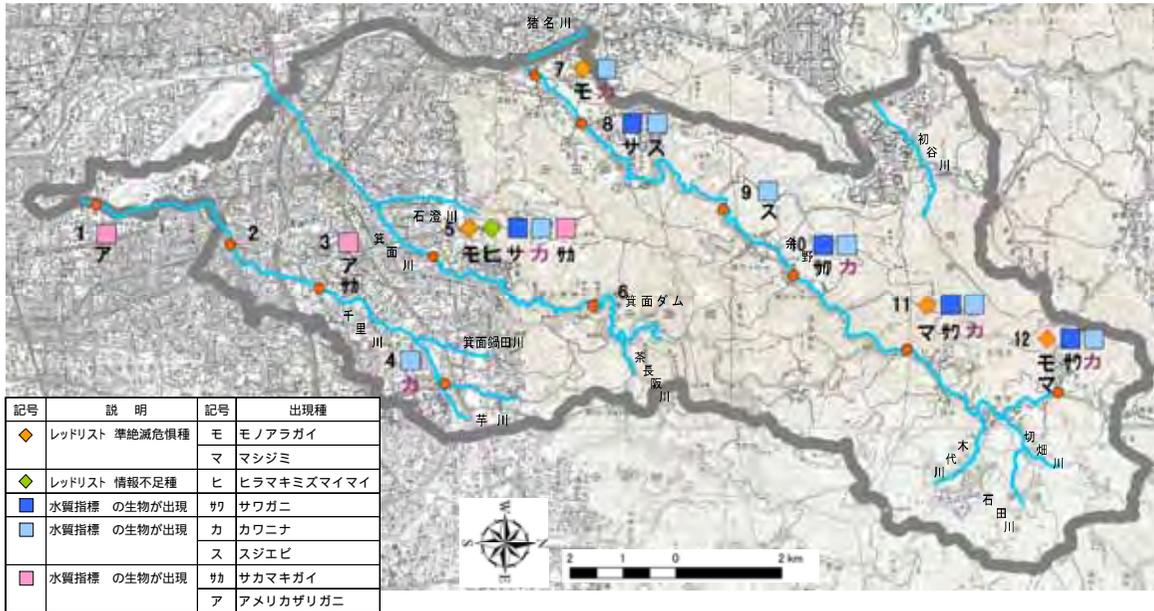


表 - 2.1.9 甲殻類・貝類確認状況

目名	科名	種名	水質階級	主な川の利用形態	千里川			箕面川			余野川			レッドリスト H19.3	大阪ROB H12.3	
					1	2	3	4	5	6	7	8	9			10
ニナ目	リンゴイ科	スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)		主に水田に生息し、用水路や流れのゆるい川にも生息する。稲を加害することもある。除草剤で利用されることもある。												
ニナ目	カワニナ科	カワニナ		水質汚濁の指標種(水質汚濁に比較的弱い)。山間部の川や比較的冷たい水が安定して流れる細流、用水路などの砂礫底に生息。												
モ/アラガイ目	サカマキガイ科	サカマキガイ		水質汚濁の指標種。平野部の川や池、用水路、人家に近い下水溝などに生息。												
モ/アラガイ目	モノアラガイ科	モノアラガイ		小川、川の淀み、池沼、水田などの水層や陸に付着している。湖底に直接いることもある。											準絶滅危惧	要注目
モ/アラガイ目	ヒラマキガイ科	ヒラマキミズマイマイ		河川、クリーク、細流、池沼、水田などに生息。											情報不足	
マイマイ目	オカモ/アラガイ科	オカモ/アラガイ		水辺や石垣などに生息。												
ハマグリ目	シジミ科	マシジミ		川の上流から中流の砂底に生息。											準絶滅危惧	
ヨコエビ目	ヨコエビ科	ニッポンヨコエビ		湧水、深流など水の澄んだところにすみ、水底の細砂の中、石や落葉の下に生息。												
エビ目	テナガエビ科	スジエビ		水質汚濁の指標種。河口域から上流域にまで分布。												
エビ目	ヌマエビ科	ミナヌマエビ		河川の下流域に生息。												
エビ目	アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ		水質汚濁の指標種(水質汚濁に強い)。河川、池沼、水田、用水路などの止水や流れの緩やかな浅い泥底に生息。												
エビ目	サワガニ科	サワガニ		水質汚濁の指標種(水質汚濁に弱い)。河川の上流域に生息し、泥底には少なく(砂礫や小石の多い場所を好む)。												
		種類数			2	2	3	2	7	1	3	3	1	3	5	4



出典：「一級河川千里川外多自然型護岸検討委託報告書(千里川、箕面川、余野川)」、H17.3、大阪府
 写真出典：「川の生物図典(財団法人 リバーフロント整備センター、平成8年)」

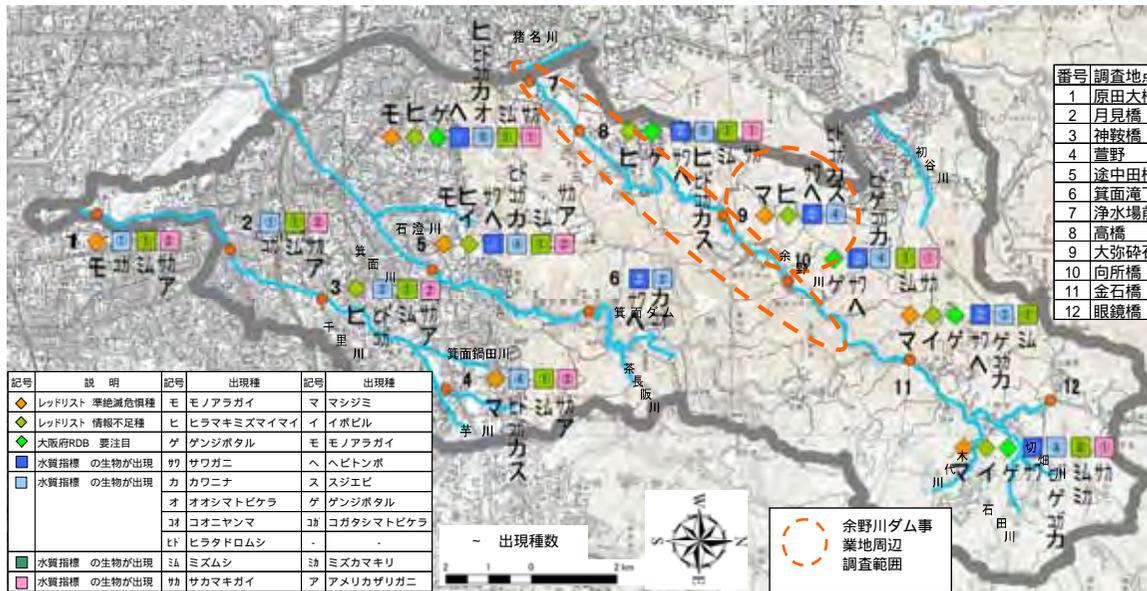
図 - 2.1.15 甲殻類・貝類確認状況

3 水生生物 (底生動物)

猪名川下流ブロックの水生生物(底生動物)は、平成3年～16年の調査で千里川は59種、箕面川62種、余野川142種が確認され、そのうち貴重種(レッドリストあるいは大阪府RDB)は、千里川と箕面川で3種、余野川で5種見られます。レッドリストの準絶滅種と情報不足の甲殻類・貝類3種について、モノアラガイが3河川の各下流で、マシジミは千里川と余野川で、ヒラマキミズマイマイが3河川で出現しています。-2(甲殻類・貝類)の平成16年調査では千里川でこれら3種は確認されていません。その他の生物では、イボビル(レッドリスト:情報不足)が箕面川と余野川で、ゲンジボタル(大阪府RDB;要注目)が余野川で確認されています。

「全国水生生物調査」で用いられる「水質階級判定方法」の指標生物30種について、水質階級別(階級～)に指標生物の出現を見ると、水質階級のサワガニとヘビトンボが箕面川と余野川で見られます。水質階級は千里川、箕面川、余野川の各地点で出現していますが出現種に違いがあります。ゲンジボタルは余野川で見られますが、幼虫がエサとするカワニナが千里川上流、箕面川、余野川で見られることから、ゲンジボタルは千里川、箕面川でも生息している可能性があります。水質階級のミズムシが各河川で、ミズマカマキリが余野川上流のみ見られます。水質階級の種は千里川全地点と箕面川下流で2種類、余野川各地点で1種類が見られます。これらから、河川の水質階級は、概ね、千里川が～、箕面川と余野川が～にあると考えられます。

なお、国が行なった余野川ダム事業における環境調査結果(H18.7)によれば、余野川ではウルマーシマトビケラ、ヤマトフタツメカワゲラ、カワニナ等が多く、北山川ではニッポンヨコエビ、ウルマーシマトビケラ、サワガニ、アシマダラブユ等が多く確認されています



記号	説明	記号	出現種	記号	出現種
◆	レッドリスト 準絶滅危惧種	モ	モノアラガイ	マ	マシジミ
◇	レッドリスト 情報不足種	ヒ	ヒラマキミズマイマイ	イ	イボビル
◆	大阪府RDB 要注目	ゲ	ゲンジボタル	モ	モノアラガイ
■	水質指標 の生物が出現	サ	サワガニ	ヘ	ヘビトンボ
■	水質指標 の生物が出現	カ	カワニナ	ス	スジエビ
■	水質指標 の生物が出現	オ	オオシマトビケラ	ゲ	ゲンジボタル
■	水質指標 の生物が出現	コ	コオニヤンマ	コ	コガタシマトビケラ
■	水質指標 の生物が出現	ヒ	ヒラタドROMシ	-	-
■	水質指標 の生物が出現	ミ	ミズムシ	ミ	ミズマカマキリ
■	水質指標 の生物が出現	サ	サカマキガイ	ア	アメリカザリガニ



写真出典：
環境省国立環境研究所
全国水生生物のページ
甲殻類、貝類写真は -2を参照

表-2.1.10 主な底生動物の確認状況

和名	水質階級	生息場所												レッドリスト	大阪RDB
		千里川				箕面川				余野川					
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
モノアラガイ														準絶滅危惧	要注目
マシジミ														準絶滅危惧	
ヒラマキミズマイマイ														情報不足	
イボビル														情報不足	
ゲンジボタル															要注目
出現種数			3				3				5				

和名	水質階級	生息場所												レッドリスト	大阪RDB					
		生息場所																		
		上流	中流	汽水	瀬	淵	水際	淀み	原田大橋	月見大橋	神鞍橋	萱野	途中田橋			箕面滝下	浄水場前	高橋	大弥砕石場	向所橋
サワガニ																				
ヘビトンボ																				
ヒラタドROMシ																				
ゲンジボタル																				要注目
コガタシマトビケラ																				
カワニナ																				
コオニヤンマ																				
オオシマトビケラ																				
スジエビ																				
ミズムシ																				
ミズマカマキリ																				
サカマキガイ																				
アメリカザリガニ																				
出現種数	13					*					7								11	

* 環境省国立環境研究所全国水生生物のページ解説による。

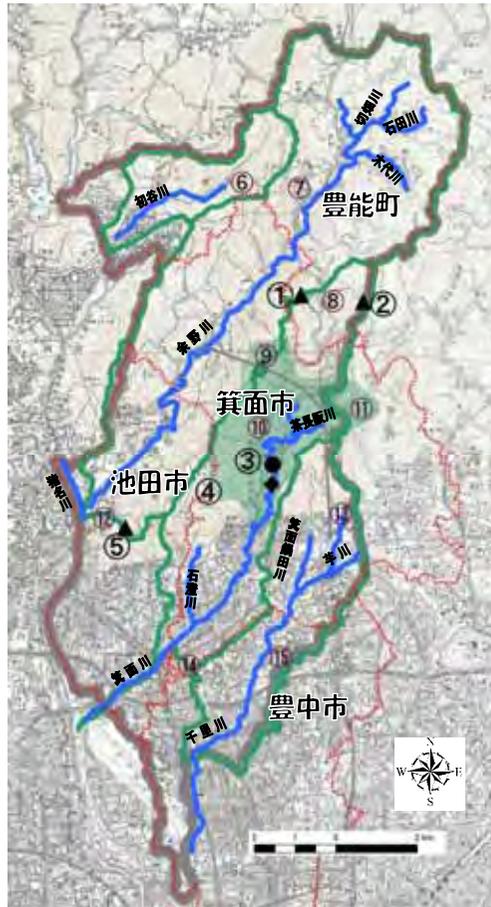
水質階級	環境
水質階級I	上流域の清流環境
水質階級II	栄養塩の流入がある中流域の環境
水質階級III	河口域の汽水域、または周辺に豊かな自然が残る田園環境、川の水位変動により本流とつながったり、取り残されて溜まり水(池)になる環境
水質階級IV	大変汚れた水

「全国水生生物調査」
川にすむ生き物を採集し、その種類を調べることで、水質(水のごよれの程度)を判定する調査で、生き物の種類と数から水質レベルを判定します。
(一般住民等を対象とした水生生物による水質の簡易調査)(環境省調査)

図-2.1.16 底生動物確認位置

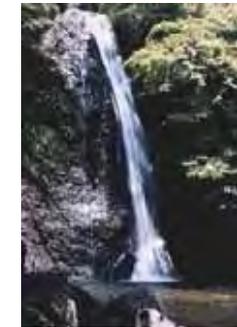
(4) 景 観

ブロック域中央の山地部は「明治の森箕面国定公園」に指定されています。北摂山系箕面川流域周辺には滝、渓谷や非火山性孤峰などの自然観光資源が分布し、アウトドアやハイキングを楽しむ場ともなっています。



② 石堂ヶ丘 ① 明田尾山

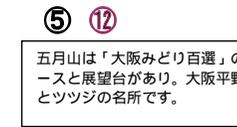
みのお記念の森から明田尾山を右側から、石堂ヶ丘、さらに北西方向の眺望である。眼下のみのお記念の森が広がり、渓谷を挟んで、やや低い山々等のスカイラインを形成しています。



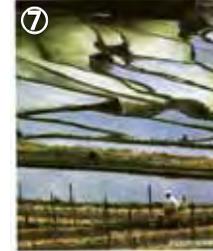
③ 「日本の滝百選」選定の落差33mの大滝です。その流れ落ちる滝の姿が、農具の「箕」に似ていることから、箕面滝と呼ばれるようになり、地名の由来もここから来ていると言われています。この滝は四季折々に応じて美しく変化しますが、特に秋は燃えたつ紅葉に、滝の音が済えわたり、秋涼爽快、我を忘れるほどの見事さです。
(出典：箕面市観光協会)



④ 箕面滝にいたる箕面渓谷沿いは、滝道として多くの観光客で賑わい、四季を通じて自然豊かな渓谷の姿を見せます。



⑤ ⑫ 五月山は「大阪みどり百選」の一つで、5つのハイキングコースと展望台があり、大阪平野を展望する絶好の地です。桜とツツジの名所です。



自然景観資源一覧

番号	区分	名称	最低標高(m)	最高標高(m)
1	非火山性孤峰	明田尾山	400	620
2	非火山性孤峰	石堂ヶ丘	550	681
3	峡谷・渓谷	箕面谷	150	200
4	滝	箕面滝	-	-
5	非火山性孤峰	五月山	70	315

(出典：第3回自然環境保全基礎調査、環境庁、昭和62年)

その他の景観資源

番号	位置等	所在市町	備考
6	初谷渓谷	豊能町	大阪みどりの百景
7	川尻の棚田	豊能町	豊能町川尻地区
8	高山の棚田	豊能町	豊能町高山地区
9	箕面記念の森	箕面市	大阪府民の森「エクスボ'90 みのお記念の森」
10	箕面川ダム	箕面市	大阪府 治水ダム
11	東海自然歩道	箕面市	東京から明治の森まで結ぶ自然歩道
12	五月山公園	池田市	池田市観光協会
13	医王岩	箕面市	古代より信仰の対象
14	待兼山	豊中市	とよなか百景 日本最大のワニの化石発見
15	西緑丘2丁目の地層	豊中市	とよなか百景 直立した大阪層群

(出典・3市1町、および各観光協会、大阪府豊能地区広域観光推進協議会)